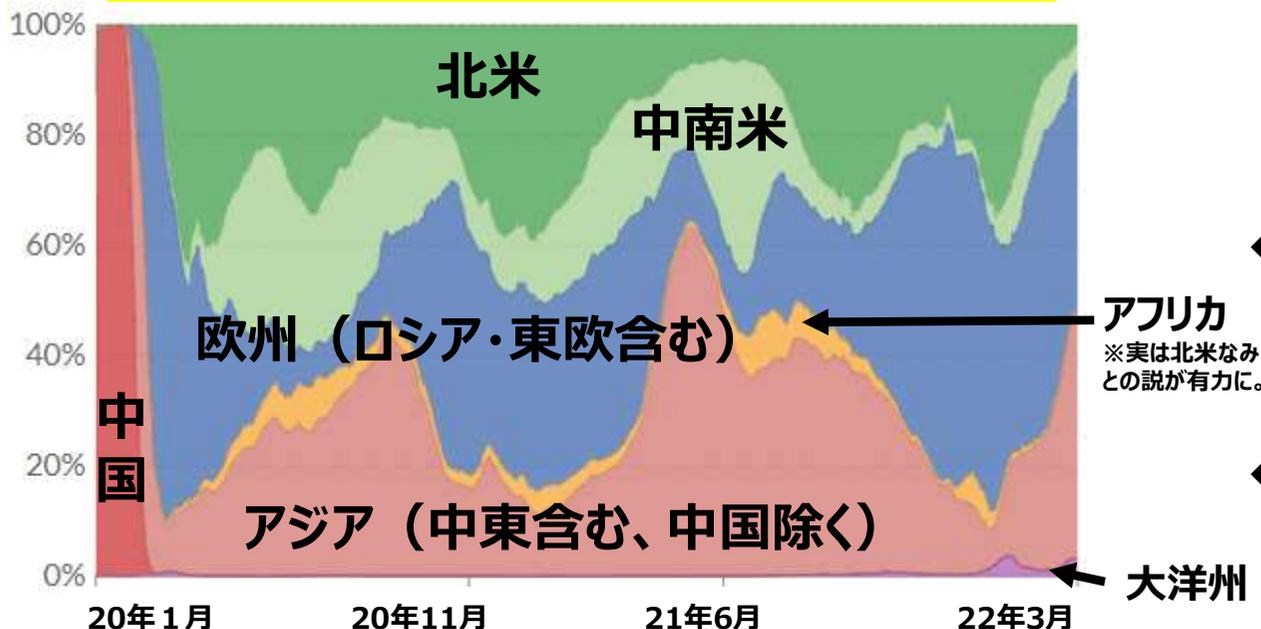


コロナと言えば、中国・アメリカ・欧州？ 中南米、中東、アフリカなどの被害も大きい

コロナ感染数の地域別割合 (Our World in Data)



- ◆ 確かに、米国は感染数・死者とも世界1位。イタリア、英国、フランス、ドイツなど欧州諸国も非常に大きな被害を受けている。**しかし、欧州・北米の被害は全体の半分以下。**
- ◆ **中南米**は人口に比べて被害が大きい。ブラジルだけでなく、ペルー、アルゼンチンなど。**感染者に占める死者の数も多い。**
- ◆ インドなど南アジア、エジプトやイランなど中東・北アフリカも被害が大きい。**東南アジアはデルタ株の登場で急激に拡大した。**

アフリカのコロナ感染や死亡のインパクトは低く見積もられている。しかし、それは本当か？

低所得国の人口当たりの検査の割合は、高所得国の78分の1 (FIND統計)

サハラ以南アフリカでは、検査での陽性判明が全体の14%に過ぎない (WHO調査、10月14日) ⇒本当は5600万人が感染したと推測される。

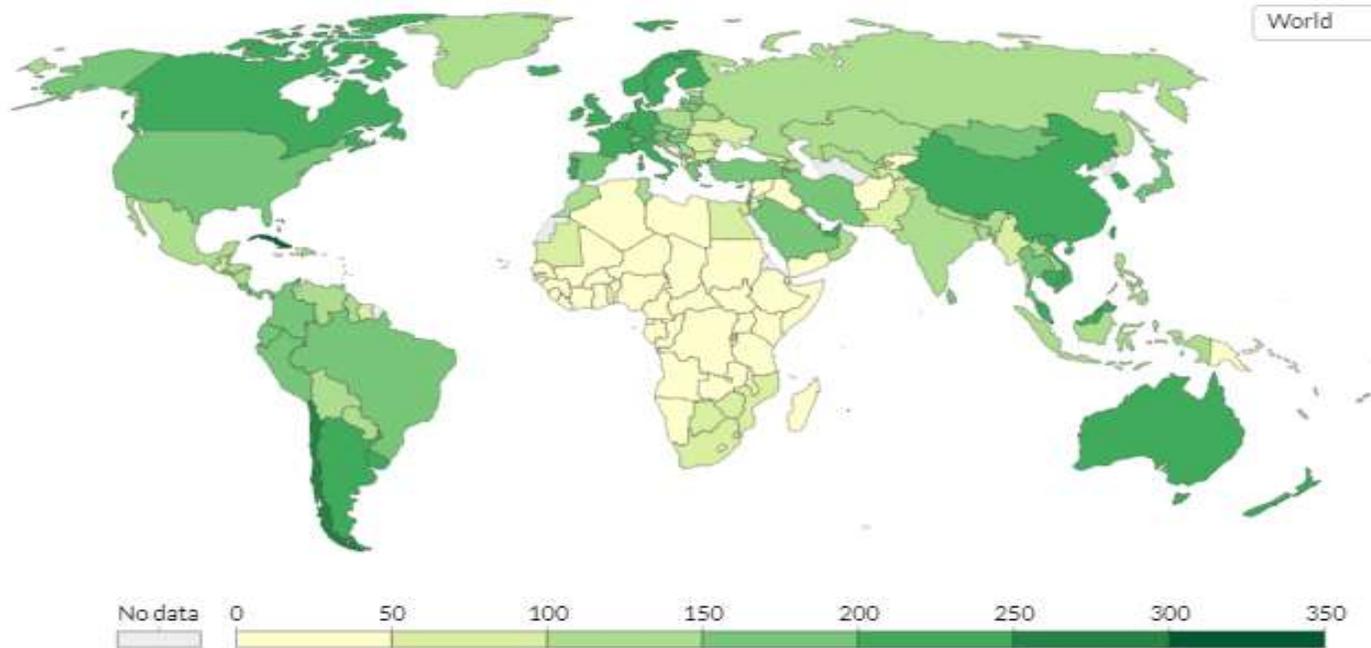
とすると、感染数は北米、欧州並みに多い (平均年齢が若く、肥満が少ないのでダメージは相対的に低い)



アフリカは世界で最も多くの大統領や閣僚がコロナで命を落としている。コロナで死亡した国家元首・閣僚24人のうち、**17人がアフリカ** (左からジンバブウェの故モヨ外務大臣、エスワティニの故ドラミニ首相、ブルンディの故クルンジザ大統領)

アフリカにおけるCOVID-19ワクチンの供給と接種 今どんな状態か？

下図：人口100人当たり何回のワクチン接種がされているか
(緑が濃いほど回数が多い：[Our world in Data](#)より)



※サハラ以南アフリカでワクチン接種率が高い国

- ・ルワンダ(135/100)
- ・モザンビーク(73/100)
- ・ボツワナ(60/100)
- ・モーリタニア(54/100)
- ・南ア(53/100)

※主要国：ナイジェリア(13)
エチオピア(23)ケニア(30)コンゴ民(1)

◆ アフリカでワクチン供給が低い理由

4A(Affordability, Accessibility, Availability, Acceptability)で考えると... ?

- **Availability/Affordability:** 国が購入できず、供給が不足（低所得国はCOVAX他に依存。昨年4-10月はインドがワクチン輸出できず供給がない状況に） = 知財権・技術移転問題
- **Accessibility:** 保健システムが脆弱でワクチンが地方や都市貧困層の現場に届かない
- **Acceptability:** ワクチンを忌避する人々が多い。これには、植民地支配の歴史や、政府に対する信頼が低いことなども影を落としている。

「地政学的転換の危機」は COVID-19に伴ってどう登場したか？

2020年段階で相次いで登場した中国、ロシアのワクチンとキューバのワクチン：
欧米メガファーマでなくてもワクチンを開発できることを証明



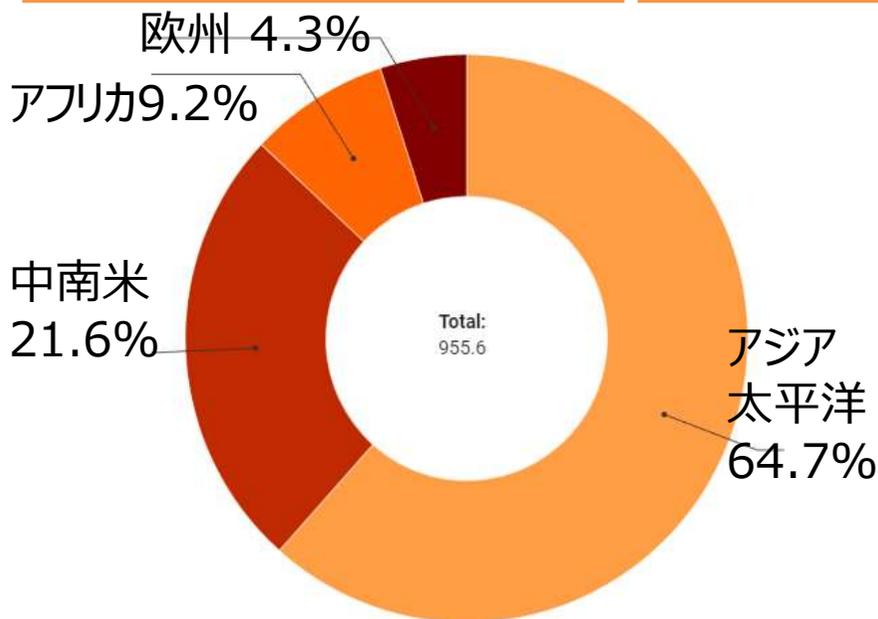
COVAXのワクチン輸出量

13.6億回分

中国のワクチン輸出量

14億回分

中国は世界各地の製薬企業20社と提携、中国ワクチンの現地生産を開始。



中国やロシアの新興国・途上国へのワクチン供給は「ワクチン外交」として非難されてきた。しかし、世界の大多数の地域へのワクチン供給の規模で見れば、「中国が主流」とすら言える状況。

➤ 中国の巨大な「ワクチン外交」は、一方で、**欧米主導の医薬品生産・流通システムが富裕国だけを対象にし、新興国・途上国は「国際機関に任せた」結果**でもある。

一方、中国ワクチンは「販売」がメイン、援助は少ない：
貧困国への供給不足の解決策になっていない。

WTOの場では知的財産権免除は膠着 しかし、様々な前進が勝ち取られつつある

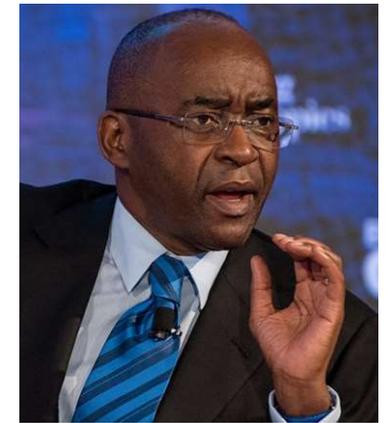


なぜバイデン政権は支持に回ったか：

- ◆ 「コロナ知的財産権免除」はバイデンの選挙公約
- ◆ 「貧者の薬局」インドの苦境：多国間協力の破綻を防ぐ。
- ◆ 中国に対抗して新たなルールメイキングのポジションをとるために「知財権免除」支持へ。
- ◆ しかし、「ワクチン」に限定など問題も明確に…。

実質的に進行する技術移転

- ◆ アフリカ連合がCOVAXと連携しつつ独自のワクチン供給イニシアティブ：アフリカ・ワクチン獲得タスク・チーム（AVATT）イニシアティブ = 南アで充填・包装するJ&Jワクチン中心：「南アで充填・包装されたワクチンの9割が欧州に出荷」をアフリカ連合が批判した結果。
- ◆ WHO・医薬品特許プール（MPP）呼びかけの「アフリカ mRNA ワクチン技術移転ハブ」：南アのAfrigen、Viobac、南ア医学研究評議会などがコンソーシャム。パンデミック中は特許権を行使しないとしたモデルナのワクチンをベースに製造と技術移転に取り組む。実験室レベルではすでに製造。6か国が技術移転受ける。
- ◆ 独ビオンテック：ルワンダ、セネガル、ケニアにファイザー・ビオンテックのmRNAワクチンの充填・包装のためのプラント輸出。



アフリカのワクチン・ギャップを訴え、地域での製造能力強化の実現に取り組むWHOのテドロス事務局長とアフリカ連合ワクチン特使のストライブ・マシイワ氏

- ◆ WHO技術移転ハブにはモデルナなどからの十分な協力はない
- ◆ ビオンテックのプラント輸出は同社の閉じたイニシアティブ